



辰巳 順一 先生

略歴

1986年 城西歯科大学（現；明海大学歯学部） 卒
1990年 明海大学大学院 歯学研究科 修了
1990年 明海大学歯学部 助手（歯周病学講座）
1997年 明海大学歯学部 講師（歯周病学講座）
2006年 明海大学歯学部 准教授（歯周病学分野）
2016年～ 独立行政法人医薬品医療機器総合機構専門委員
2019年～ 朝日大学歯学部 教授（歯周病学分野）
2020年～ 朝日大学歯学部医科歯科医療センター副センター長

日本歯周病学会 理事・指導医・専門医・評議員・口腔インプラント委員会委員
日本顎咬合学会 指導医

日常臨床におけるデータ収集と管理の重要性

朝日大学歯学部口腔感染医療学講座歯周病学分野
辰巳 順一

歯周病患者の歯科治療は、ブラッシング指導、スケーリング・ルートプレーニング、そして治癒不全の部位にはフラップ手術といったマニュアル的な治療では決していない。患者個々の全身的、社会的背景をもとに口腔清掃の重要性を認識させ、歯周治療を通じて健康に対する患者自身の概念をも変化させ、患者と歯科医療従事者がともに協力して歯周治療を行っていくことが重要であると考えている。また、その治療経過は主観ではなく客観的に評価し、治療前の状況と治療経過における治療の効果を具体的に比較できるよう、日常臨床においてデータの蓄積とその客観性が重要となる。この臨床データの蓄積から、患者個々の治療結果だけでなく、治療方法の有効性や治療予後の推定さらには、新たな治療法の検討等に利用できる。また、検査方法を統一できれば、多施設でのより大きなデータを解析に利用することができ、さらに正確な治療成績等が期待できる。現在、朝日大学歯学部医科歯科医療センター内での歯周病患者の治療における臨床エビデンスの蓄積方法を工夫し、診療、教育、そして資格取得や研究活動のためのデータ蓄積を行っている。大規模な電子カルテシステムや最新鋭の医療施設を持たないが、歯周病検査項目の統一や、疾患活動性の評価、インプラント周囲疾患に対する検査項目、歯周組織破壊が進行した場合の咀嚼機能検査、歯周病の各種画像管理などの点について少しずつカイゼンを加えながら、診療に活用している。本教育講演では、この一端を紹介し、私の所属している大学の附属診療施設における問題点も明らかにし、今後どのように日常臨床におけるデータ収集を行うかについて下記の項目を中心に紹介したい。

- ・歯周病検査データの規格化
- ・歯周病検査チャート
- ・歯周組織再生療法に用いる検査チャート
- ・インプラント周囲組織検査チャート
- ・エックス線写真画像並びに口腔内写真画像の記録と保存
- ・その他の検査法；咀嚼機能検査，歯周病原菌検査，口臭検査，など
- ・検査結果のデータベース化
- ・各種検査の評価基準と治療法選択の策定
- ・個人情報の保守・管理